

ジョホール日本人学校はどんな学校？

海外日本人学校は海外在住の日本人子女のために設立されている、非営利の学校です（Expatriate School）。そのため、入学するには就労ビザもしくは MM2H ビザならば入学可能です。学校から student ビザや guardian ビザの発行はおこなっておりません。

多くの日本人学校は、現地の商工会や日本人会の組織である学校運営委員会または学校理事会と呼ばれる組織のもとに設立された私立学校です。ジョホール日本人学校も日本人会の中にある学校運営委員会により設立された私立学校です。

教師の派遣は文部科学省から、学校の安全を守る設備、スタッフなどは外務省から補助を受けています。その他学校を運営する経費については入学金や授業料でまかなわれています。日本の学校のように教育委員会というものがいないので、特別支援教育に関わる設備や人的配置は行われていません。そのため、介助や特別な施設設備が必要なお子さんの入学は難しいです。

ジョホール日本人学校の教育課程は日本の教育課程に準じて、日本と同じ教育を提供しています。しかし、マレーシアで設立されている学校ですので、総合的な学習の時間や生活科の学習では、マレーシアの風土や社会制度などを学習内容として活かしています。また、英語教育にも力を入れており、3名の英会話講師からクラスの子供達を能力別に3クラスに分け、子供達の能力に応じた英会話の授業を行っています。授業はすべて英語で進められます。日本からやってきた子供達は初めのうちは授業に戸惑いますが、次第になれてきて少しずつ英語が口から出るようになります。英会話授業については学校ホームページの「英語教育」をご覧ください。

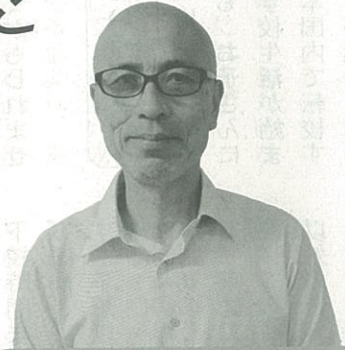
実際の学校の様子や雰囲気、そこで学ぶ子供達の様子については学校ホームページの「学校生活の様子」「学校だより」「PTAだより」そして、保護者の皆様の生の声は **INFORMATION** の 2019-11-29 及び 2019-10-8 の「学校生活の様子」をご一読ください。世界の日本人学校同様にアットホームでフレンドリーな雰囲気に包まれています。海外子女教育振興財団が発行する「月刊 海外子女教育 2019. 12号」に掲載された「きいてみよう 子供の教育」をご覧ください。海外での学校生活に不安を抱いているご家庭は特に参考になるかと思えます。

海外子女教育振興財団よりご許可を頂いて、当校のホームページに掲載させていただきました。

子どもを日本人学校に行かせるつもりなのですが、不適應を起こすケースについて教えてください。

海外子女教育振興財団
教育相談員

奥田修也



<プロフィール> (おくだ しゅうや)
ドイツのデュッセルドルフ日本人学校教諭、ベルギーのブラッセル日本人学校校長、中国の北京日本人学校校長として海外で多くの子どもたちや保護者に接した。2018年から海外子女教育振興財団の教育相談員として、渡航前・赴任中・帰国後のご家族の教育に関するさまざまな相談を受けている。

「うちは日本人学校に通うことに決めました。インターや現地校と違って安心！」と安易に考えてはいけませんよ。小規模校と大規模校、日本人学校それぞれ「不適應」の原因およびその対応策について考えてみましょう。

日本人学校の特長

基本的に、日本人の先生が日本の教科書を使って、日本語で

教えています。だから、「日本の学校と同じなんだね！」と思えますよね。それはそうなのですが、やはり海外にある学校ということで、おもに次のような特長があります。

- ・それぞれの学校が日本のカリキュラムに加えて、英語や現地語の教育にも力を入れている。
- ・校外学習や現地校との交流などで、異文化理解教育も進めている。

編入手続きもわかりやすいですし、学校として受け入れ態勢がしっかり整っています。うまく適應していければ、初日から上手に仲間入り、一週間通ったら「もう慣れたので大丈夫」、そして一カ月通ったら、もうずっと前からいたような気持ちに……。いいことばかりですね。もちろん「あつてよかった日本人学校」ということです。

しかし、そうはいつでもお子

さんにとって海外での学習のスタートになることには変わりありません。注意しておかなければならないことを考えておきましょう。

不安

行く前から不安に思われることはいくつもあると思います。そのなかでもたぶん、いちばんは「友達できるかな？」ではないでしょうか？

大丈夫です。日本人学校の子どもたちはほとんどの子が転校生としての経験を持っています。自分もそんな期間があつたので、転校してきた子にどう接すればその子にとって、また自分にとって望ましいことであるかを体で知っているのです。登校初日から周囲の子たちは、「何かかわからないことがあつたら、言つてね」「次は理科室だからいっしょに行こうか」などと上手にお子さんの慣れる過程に援助の手を差し伸べてくれるでしょう。

そこで望ましくないのは、わからないことを隠して知ったかぶりをしたり、「大丈夫だよ」と援助を断ったりすることです。もちろん自立心はあつていいのですが、ここはまず、周囲の子たちの優しい気持ちに乗っかり、軽く甘えて新しい学校生活をスタートさせるとよいと思います。

いちばんいけないのは、不安感から虚勢を張ったり、ちょっとしたウソをついたりすることです。周囲の子もたちはそのようなことは見破つて、関係づくりにつまずくかもしれせん。

日本人学校という異文化

校門をくぐれば、そこは日本。とはいつても、お子さんにとっては新しい学校生活が始まるわけです。日本国内で転校する緊張感とはわけが違ふと思います。ましてや、それまで国内でも転校した経験がないお子さ

んにとっては、日本人学校も異文化そのものになるのかもしれない。

いままでの学校生活と違うことには次のようなものも挙げられます。

●時間割

比較的短い休み時間を挟んで六・七時間授業が進められ、お弁当や昼休みの時間も短い場合が多いです。

スクールバス等のある学校では、帰る時間が決まってしまう。放課後の居残り学習も、下校時間までのちよつとした遊び時間も非常に限られるのです。予想以上にきびきびと時間が流れていく感じになります。

最初のうちは非常に疲れるので、家庭での時間はゆつたりとさせてあげたいものです。学校以外の習い事や学習なども、焦らず、お子さんの慣れ具合を見てから考えはじめるのがよいでしょう。

●バス通学

友達と談笑しながら歩いて登校するケースなどは少なく、決められた時間にスクールバスの乗車地点まで行かなければなりません。

朝の交通事情が厳しい都市では、バスに乗ってから到着まで一時間かかるということもそんなに珍しいことではありませぬ。早寝早起きは特に小学部低学年のお子さんには生活リズムが整うまで、整つてからでもできるだけ大事にしたいものです。

また帰りのバスでは、お子さん同士がちよつとしたトラブルが起きやすくなります。一日の授業が終わつた開放感もあり、ささいなからかいから、けんかに発展することも珍しくありません。悪意のあるいじめなどはめつたにありませんが、上の学年の子からのちよつかいなどがないか、お子さんからバス内での様子などを、それとなくキャ

ッチしておかれるとよいと思います。

●人間関係

小規模の日本人学校では、たとえば一学年が三名というようなときにもあります。そのようなときには、よい人間関係づくりに細心の注意が必要です。

ただし、前からいる子どもたちも、新しい仲間を大歓迎する気持ちを持っています。

まず自分を表に出し、その輪の中に飛び込んでいくちよつとした勇気が望まれます。自分を説明すると同時に、その場所での新しい自分をつくっていく道のりも前向きに考えれば楽しいものです。

日本でのいままでの自分を知っている人は新しいクラスにはいません。親としても、周りの親同士の関係を上手につくっていくことで、お子さんを支援することにしたいと思います。

●学力

いままで日本の学校では成績がトップクラスだったお子さんも、中・大規模の日本人学校に入ると、周りも優秀で相対的な成績が思ったようには出ず、一時的に自信をなくす場合があるようです。多くの日本人学校では、人を蹴落としてでもよい成績を取ろうと考える子より、みんなでいっしょにわかるようになっていこうと考える子がとても多いように思います。自信をなくさないで、毎日の学習を着実に続けていけば確実に力がついていきます。ご家庭でも励ましてあげてください。

●運動不足

日本での中学校の部活、小・中学校のスポーツ少年団などにあたる部分がなく、体を動かす機会が少ない日本人学校も多くあります。特に小学部高学年から中学部のお子さんには、運動不足は肉体的にだけでなく、

精神的にも悪影響を与えることが多いようです。そのような場合、環境的に可能であれば地元のスपोर्टクラブに入って、定期的に体を動かす時間を持つことを考えなければなりません。

以前の生活も大切に

日本人学校に入った直後はお子さんにとって新しいことばかりがどんどん身の周りで起きています。それと同時に、日本の以前の生活がぶつ切りと切れ（強制的に切られ）てしまうので、ふとしたときに、お子さん自身の心に何か空虚なもの、割り切れないものが湧いてくるのではないのでしょうか。

思い出すのは日本で親しくしていた友達のこと。
どうしてるかなあ……あんなに気の合う仲間だったのに、また、こつちで新しい友達づくりかあ……。
そんなとき、保護者のかたは「いいお友達だったねえ。そうだ、

こつちでの生活を、ときどき日本に友達に伝えてあげたらどうかな？」などと、旧友との心のつながりもキープできるということに気づかせてあげられます。またモノの面でもお子さんは切り離しを余儀なくさせられています。たとえば、日本で使っていた自転車、ちよつとした自慢のコレクション、お気に入り

の食器、など。親としては新しい生活なので、「新しいものを」という気持ちで、あるいは限られた船便スペースの都合などで理由はいろいろですが、日本に置いてこざるを得なかったモノもあるでしょう。大人から見たらつまらないモノでも、お子さんにとっては生活の一部となっていた大事なモノがあるかと思えます。
日本人学校では、習字もあれば、音楽でリコーダーも使うでしょう。日本の学校で使っていた学用品は多くの日本人学校でそのまま使えます。ぜひ、持つ

ていかれることをお勧めします。

そうやって学校に慣れていき、今度は新しい転校生に、自分が編入時に受けた優しいことばをかけてあげられるようになったお子さんも、日本人学校から羽ばたく日がやってきました。日本に帰国するにせよ、他国に移動するにせよ、そこで得た日本語で学習する着実な学力、明るく爽やかで優しい多くの友達などとの出会いはかけがえない果実となり、いつまでもお子さんの人生を豊かに彩ってくれると思います。

いちばんおいしい果実はなによりお子さんが日本人学校で安心して学習を継続しながら異文化体験をしつかり楽しみ身につけることができること。物事のも多様な見方（ああ、これもアリなんだなあ……）、好奇心、寛容性などいっぱい手に入ります。日本人学校、いいところですよ！